

平成 26 年 2 月 6 日発行

ゆきつばき通信

第 159 号

大町山岳博物館友の会



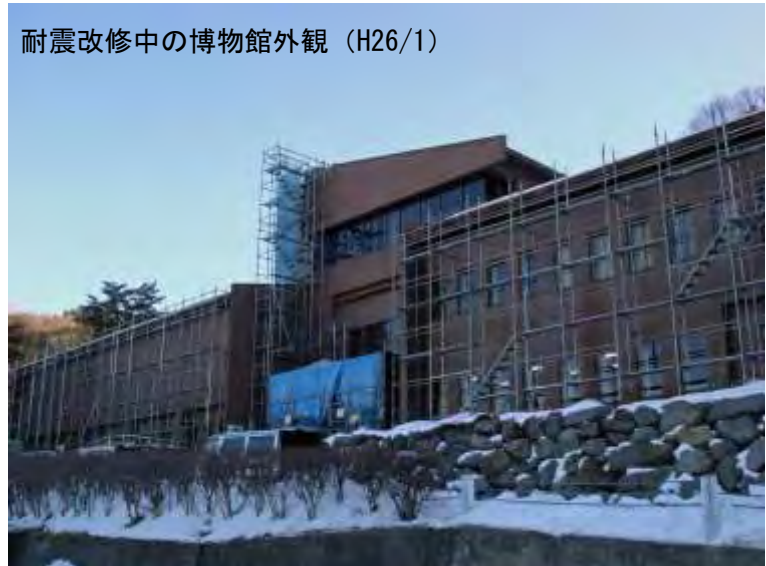
新たな山岳博物館とともに、新たな文化の創造を

大町山岳博物館 清水 隆 寿

平成 26 年 1 月、いま山岳博物館では貴重な資料の保管や機能の充実化を図るための耐震改修と併せ、岳とともにこの地に暮らした人々の願いや思いが込められた歴史を、そしてその文化をはぐくんだ自然について、よりわかりやすく後世に伝えるための展示改修が連日行なわれています。

壁を壊し、床を剥ぐ。電話

耐震改修中の博物館外観 (H26/1)



展示改修作業風景 (H26/1)



の声も聞こえないような大音響の槌音は、白熱する打ち合わせの声とともに、新しいものが産み出される生みの叫びのようにも聞こえます。その響きは、新たな時代の到来を予感させ、着実に新しいステップを踏み出していることを実感させます。

時代は今、「山岳」に大きな関心が向けられようとしています。これまでに地元信州

大学では「山岳科学総合研究所」が創設され、そして富士山が世界遺産に、今年は「信州山の日」が設けられ、また中部山岳国立公園指定 80 周年と、今まさに山への魅力に全国の人々から注目が向けられようとしています。地元大町でも「大町山岳文化宣言」を標榜し、いったい山岳文化とは何なのか、これからの山岳文化をどう創造していくのか模索の日々が続いています。そうした時機を得たこの時、山岳博物館が生まれ変わり、山岳文化を学び、伝え、活かし、創造する文化の発信拠点としての機能が求められています。それは博物館からの一方的な流れではなく、市民とともに、県民とともに一緒になって学び、創造し互いに高め合っていくことを目指しています。その牽引役として、友の会の皆様のさらなるご協力、ご支援をあらためてお願いしたいと考えております。

行事のご案内

【山岳博物館・友の会共催事業 友の会総会記念】

さんぱく座談会 —もうすぐリニューアルオープン！

地域の博物館・山博(さんぱく)について語り合いませんか？—

山岳博物館では、常設展示の改修工事のため3月28日まで臨時閉館し、3月29日（土）にリニューアルオープンします。オープンに先がけ、各展示コーナーや具体的な展示資料など、新しい展示のみどころを友の会会員や地域の皆さんにご説明するとともに、「友の会」の活動発表を行います。

これらの話題提供をふまえ、参加者全員による座談会を行い、博物館や友の会について自由に意見交換します。自然と人とが共生する「山岳文化都市」おおまちの未来へ向けて、その中核を担う地域の博物館“山博（さんぱく）”の将来像を参加者同士で語り合しましょう。

《期 日》 平成 26 年 3 月 9 日（日） 午後 1 時 30 分～午後 3 時 30 分

《会 場》 大町公民館分室 2 階 講堂（山博ではありませんのでご注意ください）

《対象・定員》 どなたでも（年齢制限なし） 定員なし

《日程・内容》

- ・受 付 13：00～
- ・開 会 13：30～ 山岳博物館長、友の会長あいさつ（5分）
- ・話題提供① 13：35～ 博物館展示リニューアル概要説明（15分）
- ・話題提供② 13：50～ 友の会 25 年度の活動発表（15分）
- 14：05～ 休憩（10分）

・座談会 14:15～15:15 (60分)

※気軽にコーヒーやお茶を飲みながらのワールド・カフェ方式により、前半の話題提供をふまえた内容で自由に意見交換します

・まとめ 15:15～ 山岳博物館副館長より総括 (5分)

・閉会 15:30 友の会副会長

《参加費》 無料

《申し込み》 前日 (3月8日 (土)) までに、電話・FAX にて友の会事務局へ
(Tel/Fax0261-23-6334)

【運営スタッフ】

山岳博物館 関・千葉 友の会 有川・宮田

平成26年度山博友の会 総 会

さんぱく座談会に引き続き、26年度総会を行います。友の会の活動をより有意義にするために、ぜひ多くの方にご出席いただき、意見を交換いただきたいと思います。

《期 日》 3月9日 (日) 午後4時 ～ 5時30分

《場 所》 大町公民館分室2階 講堂

《内 容》 平成25年度の事業報告・決算報告 平成26年度の事業計画・予算案
その他、会員からの提議に関する協議・決議
事業・行事へのご提案ご意見ご希望をお願いします。

※夕方6時30分より市内で博物館の職員の皆さんを交えて懇親会を予定しています。当日お申し込みください。

※平成25年度の「ゆきつばき」を配布いたします (予定)。

総会・座談会の会場のご案内

大町公民館分室 (東町・保健センター)

徒歩の方は、県大町合同庁舎の南です。車の方は、博物館通りからは神栄町交差点を北に200m余り、北からは県の合同庁舎の南50mほどのところ。駐車場も建物の西側になります

友の会サークル **花めぐり紀行**・・・ 設立準備中
花の美しさ・ふしぎを求めて季節ごとに各地を訪ね、花を通して地域の生態系への理解を深め、改めて大北地域の自然について見つめ、考えていきます。

・・・ 追ってご案内します



報 告

小坂共栄専門員といく 糸魚川世界ジオパーク探検ツアー

10月14日（月・祝） 糸魚川市

参加者 49名（子ども7名・大人42名 内、一般18名）

晴れた日本海は何より素晴らしい。やはり信州人は海が見えると興奮してしまいます。

朝7時、無事全員が大町市役所に集合して宮野館長、仙波店長のお見送りで一路糸魚川に向かいました。今回は糸魚川ジオパークを軸に、小坂共栄専門員のご案内でフォッサマグナパーク、フォッサマグナミュージアム、ひすい海岸と、臨時に北アルプスの端っこの親不知天陰断崖も訪ねました。



「ジオパーク」とは地質的に特筆すべきところではありますが、さらにその場を活用していることが指定の条件となっています。糸魚川は、世界ジオパークとなるずっと以前、フォッサマグナミュージアム（1994年開館）などを中心に1990年ころより積極的に整備を進めたジオパーク発祥の地です。

ここで、フォッサマグナと糸魚川-静

岡構造線について。大糸線や長野県内の中央東線に沿って延びている地質の大きな境が糸魚川-静岡構造線という大断層です。フォッサマグナは、この糸魚川-静岡構造線を西の縁としてここより東側に広がっている、比較的新しい海の堆積物や火山噴出物でできた地帯を指します。松本盆地な



どが地溝状に見えることからこれがフォッサマグナと勘違いされがちですが、松本盆地はフォッサマグナの堺にあって、その半分近くはフォッサマグナから外れ、言い換えれば長野県の中央から東側はどっぷりフォッサマグナに浸かっていることとなります（糸魚川-静岡構造線の良い露頭が無いだけで長野県はむしろ本場なのです）。

糸魚川といえば、信州人には塩の道であり千国街道です。松本からは糸魚川街道で、糸魚川からは松本街道になります。姫川沿いは荒れて街道にはならず、西か東の山の中を通っていました。関学芸員から塩の道の話をしていただきました。

最初に訪ねたフォッサマグナパーク（8:50 着-9:40 発）はその糸魚川-静岡構造線の露頭（地質が地表に現れているところ-現在は表面はほとんど覆われている）が見られるところです。根知駅のすぐ北、根知川の右岸にあります。断層際に立つ小坂先生より説明を受けました。糸魚川-静岡構造線の西側の古生代の変ハンレイ岩と東側の新生代中新世中期の安山岩がここで接しています。西は古くて東は新しい。西はユーラシアプレートに属していて、東は北米プレートになります。駐車場から露頭までは10分ほどの散策路。大町とは違う植物に千葉学芸員にも質問が飛びます。（東側に隣接してあるマグマが水中で固まった時にできる枕状溶岩の露頭は今回割愛）

次に親不知ピアパーク（10:20 着-12:00 発）に移動し、石拾いです。各自サンプル用ケースやルーペなど受け取り、海岸に散らばりました。新潟県から富山県にかけての日本海岸は砂浜の発達が悪く、ここも礫がごろごろした海岸になっています（西に漁港の突堤があるのでかろうじて砂礫がへばりつけているともいえます）。高瀬川は白っぽい石ばかりで梓川は黒っぽい石ばかりと水系によっては単調な岩石の構成になっている場合がありますが、ここは（風化や摩耗に弱いものを除いて）さまざまな石を拾うことができます。波でもまれてきれいな表面でみんなまアるくなっています。なにより、ひすいが含まれていることがあります。

適宜昼食をとりながら、これぞと思う石を拾って、検索用の掲示板で突き合わせたり先生に聞いたりしています。ちょっと見たところではひすいを見つけた人はいなかった様ですが、お気に入りの石はできたかと思いません。



進行に遅れもなかったなので、ちょっと足をのばして親不知・天陰断崖（12:20 着-

12:40 発) に寄りました。はるか足元 80m 下に打ち寄せる波も良く見えないような旧道には展望台のほかウェストンの銅像があります。33 歳のウェストンは 1894 (明治 27) 年にこの地を訪ねたことを「日本アルプス—登山と探検—1896 年」に記しています。また、少し富山寄りの道上の岩壁には「如砥如矢 (とのごとくやのごとし)」の文字が刻まれています。砥石のように滑らかで矢のように速く通れるという、道路開通を祝したものだそうです。今ではとても狭いと思う道が、1973 (昭和 48) 年まで国道 8 号として使用されていました (関学芸員解説)。



トンネル・洞門・高架と昔とは違う道を市内にもどりながら、清水隆寿学芸員からヒスイと人とのかかわりについて解説いただきました。ひすいは昭和になって当地で“再発見”されたわけですが、太古はここを交易の拠点として栄えていました。

午後 14:30 着 糸魚川市美山公園にあるフォッサマグナミュージアム (13:00 着—14:30 発) に寄りました。宮島宏学芸員からホールでゆっくり糸魚川のこと、フォッサマグナのこと、石や岩盤のこと、ひすいのこと (あれ、ちょっと脱線も) などを伺いました。巧みな話術に引き込まれて時間が経つのを忘れてしまい、館内の見学はちょっと忙しくなりましたが、一日過ごせる場所ですので、また訪れる機会ができたといえましょう。

行き帰りのバスの中でも小坂先生から説明を受けたり、ビンゴゲームで盛り上がりたりと、充実した探検ツアーでした。ビンゴゲームでは小坂専門員ご提供のヒスイやこまくさ提供の品々などが当たりました。14 時半 糸魚川発、16 時過ぎ 大町に帰着、あっという間の糸魚川街道でした。



(講師：小坂専門員 事務局担当：千葉・清水 (隆) ・関 運営部：宮澤・川崎・丸山)

烏帽子の会活動報告

青木村「子檀嶺岳」(1223m) 平成25年10月12日(土) 参加者名 11名

子檀嶺岳(こまゆみだけ)は夫神岳(おがみだけ)・十観山(じゅっかんざん)と共に青木三山として知られ、古くから信仰の山・霊山として崇められ、その呼び名は日本難読山名一覧にも掲げられ、真田氏の城砦の存在も認められ、青木村誇りの山であると言われている。



素晴らしい好天の中、総勢11名で明科支所を7:25

出発、当郷管社コース登山口にて準備体操を終え、8:55に登頂開始。

歩きやすい山道を過ぎ、林道に入り、それを越えた所から登山道らしい急な登りになり、皆、息を切らせながらも元気良く、登山口より丁度2時間10:55に頂上到着。

山頂では思い思いのお弁当をいただき、にぎやかに会話も弾み、楽しいひと時を過ごした。季節はずれの暖かさで秋の澄んだ眺望とは行かず、少し薄ぼんやりした感じの中だでしたが青木村全景、浅間山、遠くに北アルプスも鑑賞できました。

下山後国宝「大法寺三重塔」を鑑賞 13:50 大法寺出発 村営「くつろぎの湯」にて汗を流し帰途。



山頂に祭られてある祠



緑に映える国宝三重の塔

山梨県韮崎市「茅ヶ岳」(1704m) 平成25年12月14日(土) 参加者16名

茅ヶ岳は「深田久弥終焉の地」として有名でこの時期でも、登山口駐車場に20台ほどの車が駐車してました。参加者も16名と多く久しぶりの参加者もおり賑やかな山行になりました。

松川村道の駅に集合し3台の車に便乗し7:30に出発

9:30 登山口を出発 最初は良く整備された幅広い登山道を軽快に登り始め、ほとんど花のない季節ながらわずかなムラサキシキブを楽しんで歩くうち、途中から20cmはあろうかと思われる深い落ち葉の層にぶち当たり、その中をラッセルしながら、一步一步登る。



1時間以上の後、ようやく尾根に出る。女岩の前で休憩 この先急登が続く途中深田久弥が倒れた場所に「深田先生終焉の地」の碑が建てられています。宮澤会長がお線香を準備しており皆それぞれの思いで祈りを捧げました。火の始末をし山頂を目指し12:30到着。

山頂は風が強かったが360度の展望で、遠くの富士山、近くの金峰山・瑞牆山はじめ南アルプス・中央アルプス・北アルプス・八ヶ岳等全てが見渡せた。

13:20 山頂出発。下りは尾根道を通り気持ちのいい登山道で15:00登山口到着 傍の「深田公園」立ち寄り【百の頂きに百の喜び有り】の記念碑に深田久弥偲ぶ。その後は「明野温泉太陽館」にてぬるめの湯で疲れを癒し、18時20分に松川村道の駅に到着。お天気も絶好の青空に恵まれ、深田久弥を偲んだ楽しい登山になりました。

今後の烏帽子の会山行予定

平成26年3月15日(土)

「みねかたスキー場上部歩くスキーコース」

この時期スキー場の営業は終わっています。一周5kmのコース、ここも天気が良ければ絶景です!

ボランティアサークル便り

活動報告（9月～11月）

☆9月15日 夏に続いてサクラソウポットの除草をしてサクラソウの成長を助けました。続いて友の会湿地植物園、山岳図書館周辺の除草をしました。今年はクサレダマ（黄）、コオニユリ（橙）、エゾミソハギ（赤）、カキツバタ（紫）、サワギキョウ（紫）他数種類の花々が6月～9月まで次々と咲き楽しむことができ、手入れの賜と喜び合いました。11月1日に枯れ草、枝を刈り、2階テラスの鉢植えの花の整理、冬籠りの準備をして屋外でのボランティアは終わりました。ボランティアに参加された多くの皆さん暑い中、時には雨の中お疲れさまでした。

☆11月10日（日）飯田市美術博物館 飯田市動物園・ボランティア研修 参加者16名 あいにくの大雨となりましたが、飯田美術博物館では学芸員から伊那谷友の会の活動の紹介、普段見る事の出来ない収蔵庫、図書室、実験室の見学等をさせて頂きました。傘をさしての飯田市立動物園見学でしたが飼育員の方から丁寧な動物、飼育状況を聞くことが出来ました。大いにヒントを得られた研修となりました。詳細は別コーナーをご覧ください。

今後の活動予定

☆3月29日に博物館リニューアルオープンが予定されています。改修後は展示物や展示風景の様相が異なることから、ボランティアの会に向けた館内解説の研修会を3月23日（日）午後2時～3時30分に開催いたします。当日は、新パンフレットを見ながらの内覧会的なものになるかもしれません。参加お待ちしております。

事務局担当：有川美保子

飯田市美術博物館 飯田市動物園・ボランティアサークル研修の報告

しつとりと雨の降る中、16名は飯田市美術博物館と飯田市動物園を訪ねました。

飯田市美術博物館（以下、美博）では「博物館と伊那谷自然友の会の活動」として村松武学芸員より講演頂き、





また、バックヤードを中心に美博館内をご案内いただきました。

伊那谷自然友の会は地域のサークルの緩やかなネットワークということで、必ずしも博物館友の会ではありませんが、飯田市からの補助もあり、月1～2回の講座や講演会を美博と共催するほか、伊那谷各地での見学会（月2回ほど）などの事業をされています。

伊那谷自然友の会は教員を中心とした市民グループ活動として始まり、美博もその活動拠点として要望し参加して作られた経緯は、山博と似ているところがあります。近年は会員の減少や高齢化など、山博友の会と同じ課題はあるようですが、自然と人を含めた地域のネットワークとして活発な活動をされています。

バックヤードは、新しい博物館はこのような構造が多いのですが、トラック横づけで大きなものも搬入できる搬入庫や大型のエレベーター、各分野ごとの研究室なども見学させていただきました。決してきれいに整理整頓されているわけではありませんが、活発な活動がうかがえました。関連する分野については図書館もあり、また、市民用にも使えるギャラリー（飯田線の展示をやっていた一鉄）やフリーのスペースもあります。

美博では特別展として「カミとホトケの交渉史—廃仏毀釈の爪跡—」が行われていました。お寺とお宮の比較的最近の出来事を県宝や重要文化財を含めて展示し、興味深く見せていただきました。仁科神明宮の懸仏もありました。関連する文化講座も何回か実施されている様でした。

プラネタリウムでは美博オリジナルの番組「中央構造線」を全天周映像映像を楽しみました。少数が居残って星空解説も観ました（季節が少しずれていたのは残念でした—天）。

午後は飯田市動物園に移動（バスであったり徒歩で街を見ながら、お昼をとりながら）して見学しました。突然の訪問にもかかわらず飼育員さん（記念写真左端の方）のご案内をいただき、飼育の様子や園の活動などのお話を伺いました。大きな動物園ではありませんが、動物たちとの距離感が近い園でした。カモシカも（この日は雨で見られなかったが）南アルプスをバックに見られるよ



うなレイアウトになっています。雨のため一部のプログラムは中止となっていました
が、ビーバーの習性を利用したプログラム（ビーバーの巣直し）なども見学させてい
ただきました。動物たちとのふれあいコーナーや催事に使われるステージなども見学
しました。

皆さんも機会がありましたらぜひ飯田市美術博物館と飯田市動物園をお訪ねくだ
さい。

ミュージアムカフェ「こまくさ」より

「ミュージアムカフェ
こまくさ・さよならコン
サート」は55名の参加
で一階ロビー満杯で行
われました。出演の「み
どりむしのあゆみ」（+
栗原さん）のみなさん
にはジブリやフォルク
ローレ、山の歌などなじ
みの曲を中心に和やか
に演奏いただきました。ま



た、参加者も加わって「雪山讃歌」、「いつでも夢を」を合唱しました。

友の会もいろいろ仕掛けて、店長仙波
さんに長年のご苦勞に感謝して記念品と
花束（有志による）を贈りました。

当日は閉店ファイナルセール第2弾
の初日でもあり、コンサートの時だけ
でも25,000円くらいの売り上げがありま
した（ありがとうございました）。



さて、こまくさは友の会の手を離れることになり、11月4日をもって閉店となり
ました。この間、多くの皆さんにご協力いただき厚く感謝申し上げます。次年度から
は営業日の拡大などミュージアムショップとしての機能をさらに充実して再開され
るとのことです。友の会の皆さんにも引き続きご利用いただきますようお願いいた
します。

編集部より 友の会会報「ゆきつばき」原稿募集 大至急

～～～喫茶店「こまくさ」によせて～～～

原稿の集まりが悪く（原稿の催促も悪く）原稿の締め切を2月初旬までとしますので、ぜひご協力をお願いします。特に、行事参加の感想をお寄せください。

原稿は takuya-m@juno.ocn.ne.jp（丸山卓哉）宛てお送りいただいてもかまいません。その際、件名に「ゆきつばき 42 号原稿」等をお付け下さい。写真等も添付できます。受領確認した場合は返信しますのでご確認ください。写真やスケッチなどがありましたら添えていただくとありがたく思います。ワープロなどで作成の場合は、テキストデータもいただければ、この時期、大変助かります。

山岳博物館臨時休館のお知らせ

市立大町山岳博物館は、本館耐震改修および常設展示改修工事のため、3月28日（金）まで休館しています。



展示改修の打ち合わせに「おおまびょん」も参加！

ゆきつばき通信編集部より _____

1月は行く、2月は逃げる、3月は去る というように、新年になってもう一ヶ月が経とうとしています。何かと忙しくて、ゆきつばきの編集が始まっていません（まだ、原稿が間に合うという事です）。

次の行事と総会のご案内になります。博物館とともにある友の会員の多くの参加をお願いします。

0（丸山卓哉）

ゆきつばき通信 第159号

発行／大町山岳博物館友の会 平成26年2月6日

〒398-0002 長野県大町市大町 8056-1

大町山岳博物館内 山博友の会事務局 Tel/Fax 0261-23-6334

会費振替口座番号 00550-2-24194 加入者名 山博友の会

山博ページ <http://www.city.omachi.nagano.jp/sanpaku/>

友の会ページ <http://www.city.omachi.nagano.jp/sanpaku/tomodown.htm>